

兵庫県伝統的工芸品  
ぬくもりの丹波木綿



丹波木綿保存会

1973年頃から丹波篠山市栗柄地区で機織機を持ち寄り、明治時代の機械化により、一時途切れていた丹波木綿の生産を再開し、昔ながらの製法による手織木綿を復活しました。創作館で活動しています。丹波木綿の購入、見学は「丹波木綿保存会」まで。

創作館

〒669-2711 兵庫県丹波篠山市栗柄 1319

TEL.079-593-0922

開館日：月・火・木・金・土 9:30～16:00

(水・日・祝祭日は休館)

お越しの際は事前にご連絡ください。

紡ぐ  
織る  
つなぐ



① 出来上がった丹波木綿



原料の綿は自家栽培しています。8月中旬から10月下旬頃、生長した綿がさやからはじめて顔を見せます。

## 伝統的工芸品

約300年間、日常生活の中で親まれてきた丹波木綿は、多くの人の目や手に触れることにより日常使いの美を生み出し、その伝統技術、日常用品、手作り品などの要件を満たし、1996年に兵庫県伝統的工芸品の認定を受けました。



① 種取り



② ジンキ作り



③ 糸紡ぎ



④ 染色 (草木染)



⑤ 整経(へる)

# 里に響くは 機織る音よ 丹波木綿の 子守歌

デカンショ節大賞  
優秀賞受賞(平成27年度)



糸よ細出よ細出てきれなあ  
かわい殿さの縞の横

わしは朝から四十目のジンキ  
鳥が啼いてもまだ残る

サトク落とすは織手のジヨサイ  
落ちたサトクに科はない

(丹波篠山地方の紡ぎ歌)



⑥ 整経した糸をちぎりに巻く



⑦ もじり通し(綜統)



⑧ はた織り

江戸時代宝永年間より丹波篠山市栗柄の里に伝わる伝統技術を用い、地元でとれた材料を使い、ひとつひとつ丁寧に織られた木綿が丹波木綿です。農家の嫁や娘が農閑期の冬に糸を紡ぎ、染め、織り、一家の衣料としていました。栗柄の自然と暮らしの中ではぐまれ、「用」と「美」を兼ね備えた味わいある生活用品として、今日まで受け継がれてきました。